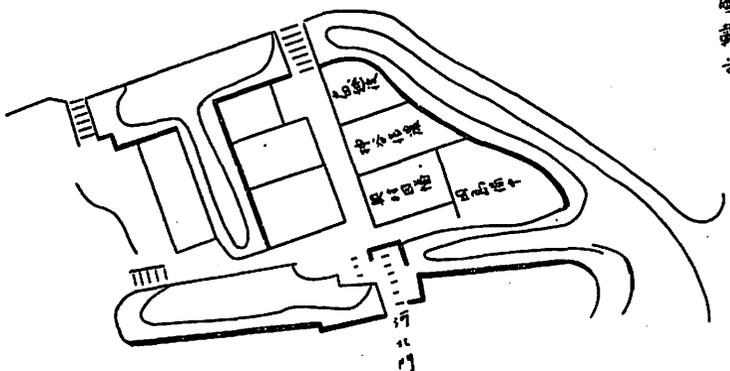


貞享二年の由來書に云ふ。大納言利家卿、當寺開祖善等和尚於越前國府中就御懇深、當加州御入部の頃御跡を慕ひ、金澤へ罷越、則後原出羽取次を以て、天正八年十一月新御丸之内に於て、寺屋敷千步餘拜領仕、寺建立之處、利長卿御代御用地被召上、塩屋町龜淵にて代地拜領被仰付云々。とあり。今按ずるに、天正八年は、天正十八年などの書損なるべし。さて右新御丸と載せたる地は、即ち今云ふ。新丸の事ならば、天正の頃は大手先の郭外にて、城内にあらざりし故に、寺地を爰に賜はりたるを、利長卿慶長四年に此の地邊をば出丸となし、城郭内となし給ふにより、寺地をば召上げられ、代地を堀川塩屋町龜淵と呼べる地へ移轉し、爰に賜はりたるものなるべし。由來書等に於新御丸之内拜領と載せたるものは、後其の舊地を新丸と稱し、城郭内の一曲輪となりたる故也。此の地は往古本丸に本源寺ありし頃、其の支坊の道場共多く有りたる地にして、新丸にある會所・作事所等、皆古の道場共の建物を其の儘用ひられたりといへり。

○新丸諸士第圖

慶長古圖式



こゝに載せたるは、慶長の末頃の圖にて、其の頃新丸に第地を賜はり居住せし人々の第也。その姓名記載なき地共も皆第地なるべけれど、姓名を記さず。故に詳かならず。金城深秘録に、往昔御城内の土屋敷之事を載せて、

一、越後屋舖は、富田越後守居住之地、今以其號を越後丸とも云ふ。

一、御細工所之地には、岡嶋備中守居住。後御城外に立退き、其跡御工所（細）に相成候處、南御馬場入口に役所替被仰付之山。最初の所を元御細工所与申候。

一、御作事所に向ひ、右の方は横山山城守居住地、左之方は津田玄蕃居住。横山家を新丸家といふよし、所持の小繪圖にも調有之候。右兩家共後御城外に替地被下立退き、其跡御作事所に相成由。

右は新丸の分なり。平次按ずるに、前顯の古圖に姓名を記載せざる第地は、即ち右の人々の第地にして、横山山城守居住地といへるは、横山大膳康玄の居第なるべし。津田玄蕃居住地は、大膳居第の向うなりし事は、右小繪圖に載せたる如くならば、是にて知られけり。下條に記載せる與津

内記が居第は、其のケ所未だ詳ならず。

○岡嶋備中守一吉蕃第

此の第地は、前顯の古圖に見わたる如く、新丸の南隅にて、後細工所として細工人の役所と成りたるよし、有澤武貞の金澤細見圖譜等にいへり。三壺記に云ふ。元祖岡嶋備中守は、生國尾張國春日井郡豐場の出生にて、若名を喜三郎と云ひ、越前府中にて八拾石賜はり、後數度の軍功に依りて萬石餘を領知せりと。吉田軌中の前田四代日記に、慶長三年四月廿日、利長卿中納言從三位に叙任し給ひ、此日青山與三吉次は佐渡守に、岡嶋喜三郎一吉は備中守に成り、各從五位下諸大夫に被仰付。と見ゆ、菅齋録・菅君雜錄及び一本系譜等にも、青山佐渡守吉次・岡嶋備中守一吉、兩人共に此時叙爵せし由を記載す。家の系譜に其の事を載せざる故にや、青地禮幹の本藩略譜及び三州志等には記載せず。中にも、一吉は越前府中以來利長卿に奉仕して、元和五年八月廿一日卒す。享年未だ詳かならず。今金澤備中町は二代備中の下第にて、延寶の金澤圖に、岡嶋備中下屋敷とあり。其の嫡流は享保十七年斷絶せり。